小林市文化財調査報告書　第５集

市内遺跡発掘調査報告書

― 平成 21（2009）年度 ―

平成 22（2010）年３月
宮崎県小林市教育委員会

序　文

この報告書は、小林市教育委員会が平成21年度に実施した確認調査の報告書です。

近年、小林市では開発事業等の増加により、開発事業と埋蔵文化財保護との調整が重要な課題となっています。平成4年度から平成5年度にかけて市内の遺跡詳細分布調査を実施し、その結果、250ヵ所以上の遺跡が確認されています。小林市教育委員会ではこの結果を受けて、開発区域内の遺跡について事前の試掘・確認調査を実施しているところです。

本書の刊行を機に、皆様の埋蔵文化財に対する一層の御理解をいただければ幸いです。

最後になりましたが、調査に御協力いただきました関係諸機関並びに地権者の方々、また発掘調査に従事していただいた皆様に厚くお礼を申し上げます。

平成22年3月

小林市教育委員会
教育長　佐藤　勝美

例　　言

1　本書は、小林市教育委員会が平成21年度に実施した市内遺跡発掘調査の報告書である。

2　調査組織は以下のとおりである。

調査主体	小林市教育委員会
教育長	佐藤勝美
社会教育課長	堀　英博（平成21年4月）
	嶽本　強（平成21年4月～平成22年3月）
	大角良弘（平成22年3月）
社会教育課主幹	天辰より子
	芹田直茂
庶務担当	高原百合香
調査担当	落合賢一
	秦　広之
発掘作業員	

3　本書の執筆及び編集は秦が行った。

本 文 目 次

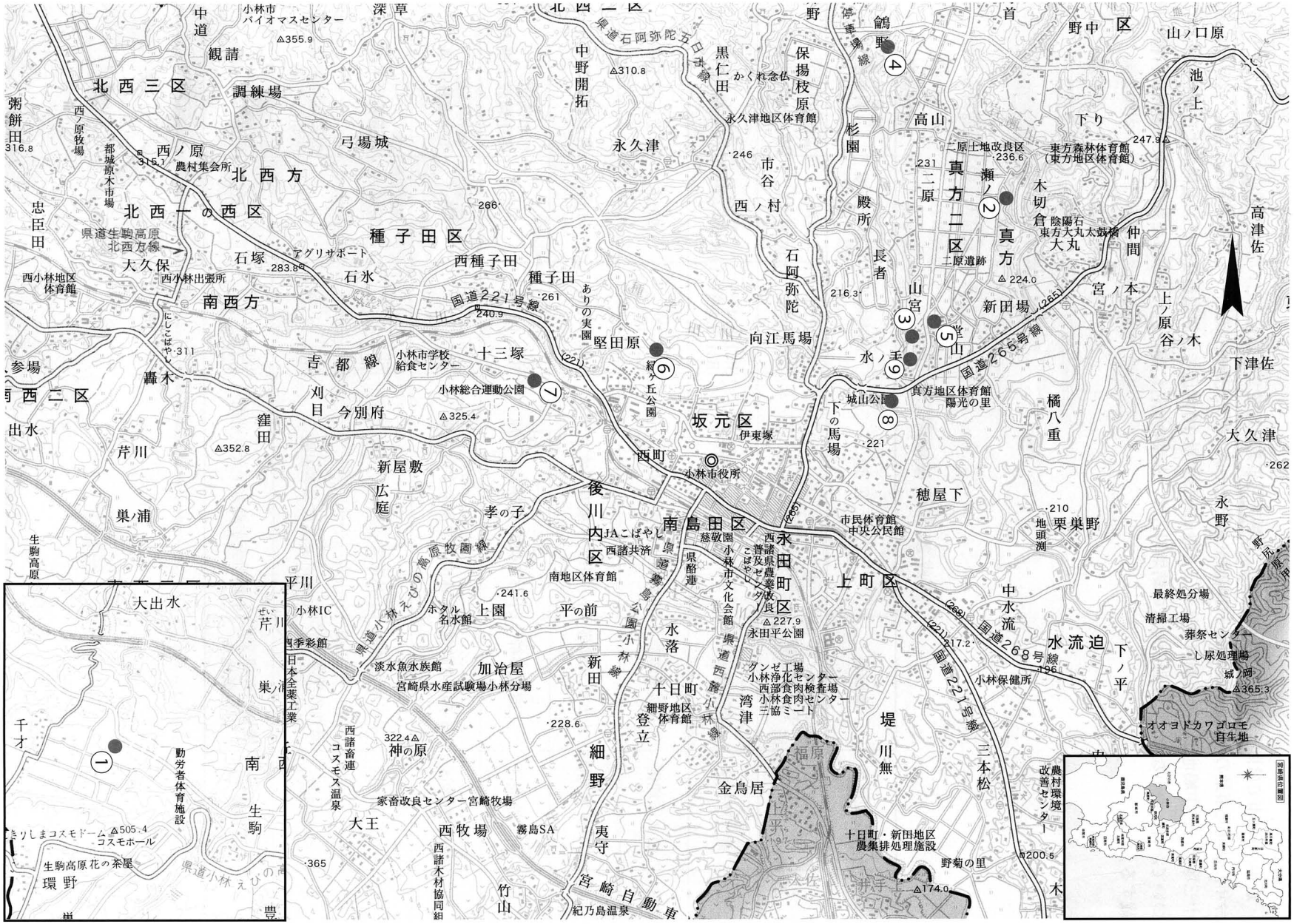
確認調査の記録 …… 1
1　千才地区 …… 3
2　東二原地区 …… 4
3　松ノ元地区 …… 7
4　オカラ木地区 …… 10
5　下二原地区 …… 11
6　内屋敷地区 …… 12
7　十三塚地区 …… 14
8　中嶋地区 …… 15
9　大豆別府地区 …… 16

確認調査の記録

近年、小林市では開発事業等の増加により、各種開発事業と埋蔵文化財保護との調整が重要な課題となっている。今年度は開発事業の予定されていた千才地区、東二原地区、松ノ元地区、オカラ木地区、下二原地区、内屋敷地区、十三塚地区、中嶋地区、大豆別府地区、三ヶ野山地区の計10地区で確認調査を行い、遺構および遺物の有無について調査した。なお、三ヶ野山地区の結果報告は、本書の刊行に間に合わなかったため、来年度の報告書に掲載する。

平成21年度 確認調査地一覧表

番号	調査地区名	遺跡名	所 在 地	調査期間	調査面積	調査要因
1	千才地区	千才遺跡群	小林市大字南西方字千才	H21.4.16	24㎡	県営畑地帯総合整備事業
2	東二原地区	二原遺跡群	小林市大字真方字東二原	H21.8.17～H21.8.25	124.5㎡	市道改良工事
3	松ノ元地区	二原遺跡群	小林市大字東方字松ノ元	H21.10.8～H21.10.10	97㎡	市道新設工事
4	オカラ木地区	オカラ木遺跡	小林市大字東方字オカラ木	H21.10.15	8㎡	農道舗装工事
5	下二原地区	二原遺跡群	小林市大字真方字下二原	H21.10.28	8㎡	市消防団詰所新設工事
6	内屋敷地区	種子田遺跡群	小林市大字真方字内屋敷	H21.11.30～H21.12.2	13.5㎡	市道改良工事
7	十三塚地区	十三塚遺跡群	小林市大字南西方字十三塚	H21.12.21～H21.12.22	33㎡	市道新設工事
8	中嶋地区	周知の埋蔵文化財包蔵地外	小林市大字真方字中嶋	H21.12.24	72㎡	農業協同組合の支所新設工事
9	大豆別府地区	周知の埋蔵文化財包蔵地外	小林市大字真方字大豆別府	H21.3.17～H21.3.18	71㎡	市道新設工事


①千才地区 ②東二原地区 ③松ノ元地区 ④オカラ木地区 ⑤下二原地区 ⑥内屋敷地区 ⑦十三塚地区 ⑧中嶋地区 ⑨大豆別府地区
北西三区
北西方
北西一の西区
種子田区
南西方
南西二区
坂元区
南島田区
永田町区
上町区
真方二区
真方
瀬ノ
山宮
水ノ手
堅田原
十三塚
小林市役所
小林総合運動公園
城山公園
真方地区体育館
陽光の里
東方森林体育館
(東方地区体育館)
二原土地改良区
二原遺跡
小林市学校
給食センター
小林市
バイオマスセンター
農村集会所
西小林出張所
西小林地区
体育館
アグリサポート
南地区体育館
西諸共済
JAこばやし
慈敬園
小林市文化会館
県酪連
西諸普及センター
こばやし
小林浄化センター
西部食肉検査場
小林食肉センター
三協ミート
グンゼ工場
小林保健所
市民体育館
中央公民館
細野地区
体育館
十日町・新田地区
農集排処理施設
農村環境
改善センター
家畜改良センター宮崎牧場
宮崎県水産試験場小林分場
淡水魚水族館
ホタル
名水館
四季彩館
日本全薬工業
西諸畜連
コスモス温泉
霧島SA
紀乃島温泉
宮崎自動車
県道小林えびの高原牧園線
県道石阿弥陀五日市線
県道生駒高原北西方線
国道221号線
国道265号線
国道268号線
オオヨドカワゴロモ
自生地
最終処分場
清掃工場
葬祭センター
し尿処理場
城ノ岡
△365.3
△355.9
△310.8
△315.1
△352.8
△325.4
△224.0
△227.9
△200.5
△174.0
△505.4
コスモホール
生駒高原花の茶屋
勤労者体育施設
宮崎県位置図

1　千才地区（小林市大字南西方字千才）

〔調査地の立地と環境〕

調査地は小林地区の南西部に位置し、周知の埋蔵文化財包蔵地「千才遺跡群」の範囲内である。現況は畑地で、霧島山系から派生する扇状地上に立地する。

〔調査に至る経緯〕

千才地区では、県西諸県農林振興局による県営畑地帯総合整備事業が計画されていた。工事予定地は周知の埋蔵文化財包蔵地である「千才遺跡群」の範囲に含まれており、縄文～弥生時代の遺物散布地と把握されていた。そこで、県西諸県農林振興局と市教育委員会との協議の結果、工事施行前に遺構・遺物の有無を判断するため、確認調査を実施することになった。

〔調査の概要〕

工事予定地に 10 箇所の試掘坑を設定し、地表面から深さ 0.7m ～ 1.2 mまで掘削した。調査の結果、地表から 0.2 ～ 0.5m までは道路舗装による客土が堆積し、いずれの試掘坑からも遺構および遺物を確認することはできなかった。

〔調査後の処置〕

慎重工事

試掘坑 2

試掘坑 3

試掘坑 7

試掘坑 8

2　東二原地区（小林市大字真方字東二原）

〔調査地の立地と環境〕

調査地は小林地区の中央部に位置し、周知の埋蔵文化財包蔵地「二原遺跡群」の範囲内である。現況は畑地で、標高 230m 前後の台地上の端部に立地する。調査地から南 800m には、古墳時代後期の地下式横穴墓が多数発見された東二原地下式横穴墓群がある。

〔調査に至る経緯〕

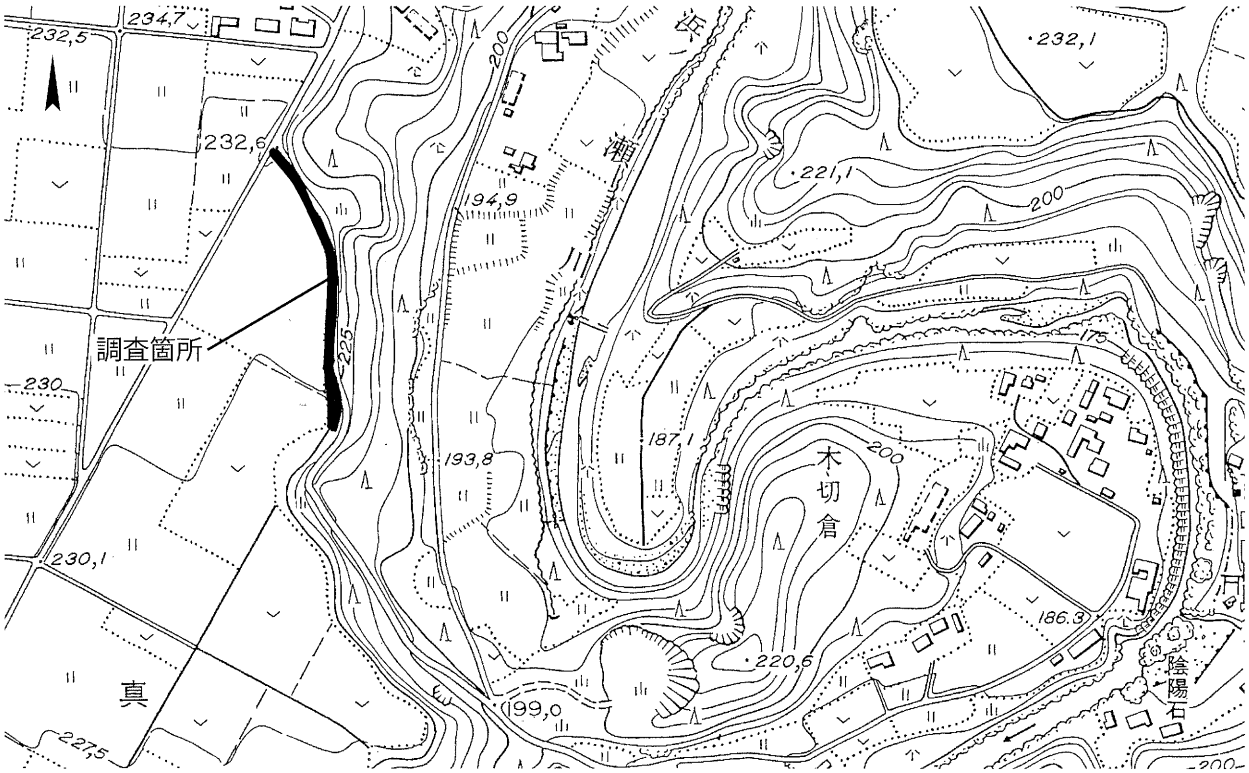
東二原地区では、市建設課による道路改良工事が計画されていた。工事予定地は周知の埋蔵文化財包蔵地である「二原遺跡群」の範囲に含まれており、弥生～古墳時代の遺物散布地と把握されていた。そこで、市建設課と市教育委員会との協議の結果、工事施行前に遺構・遺物の有無を判断するため、確認調査を実施することになった。

〔調査の概要〕

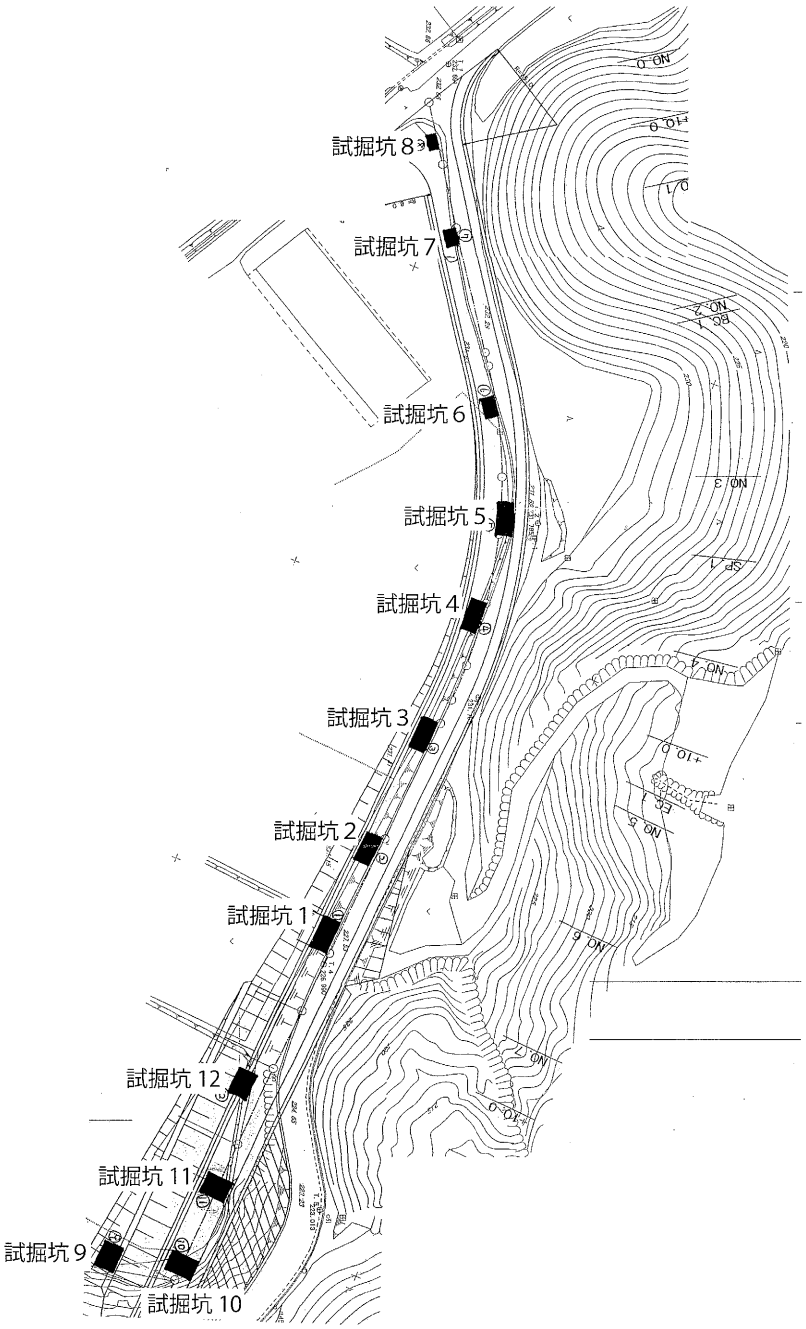
工事予定地に 12 箇所の試掘坑を設定し、地表面から深さ 0.8m ～ 1.8 mまで掘削した。地表から 0.5 m前後でアカホヤ火山灰層が確認され、この層の上面で遺構の検出を行ったが、遺構および遺物は確認することはできなかった。アカホヤ火山灰層下位の黒褐色土層から貝殻条痕文土器および押型文土器、石鏃など縄文時代早期の遺物が出土し、同じ堆積層から集石遺構を３基確認することができた。

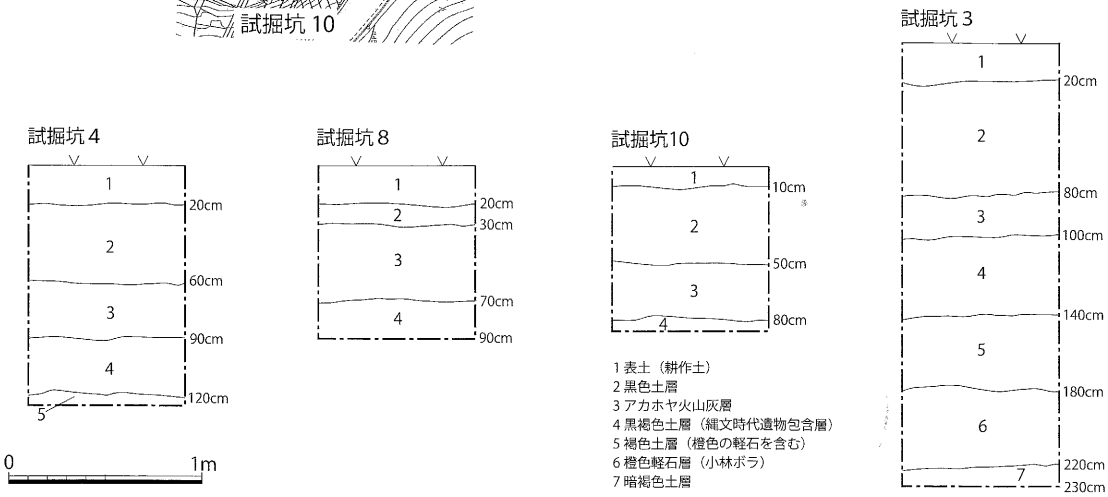
〔調査後の処置〕

確認調査の結果、開発予定地に縄文時代早期の遺構および遺物が確認され、計画されている工事計画では遺跡の保存が困難であることから、本発掘調査を実施することになった。本発掘調査は小林市教育委員会が平成 21 年８月 28 日から９月 18 日、平成 22 年１月 13 日から３月２日にかけて実施した。



東二原地区確認調査箇所





東二原地区確認調査地点（1/1,000）及び試掘坑土層図（1/40）

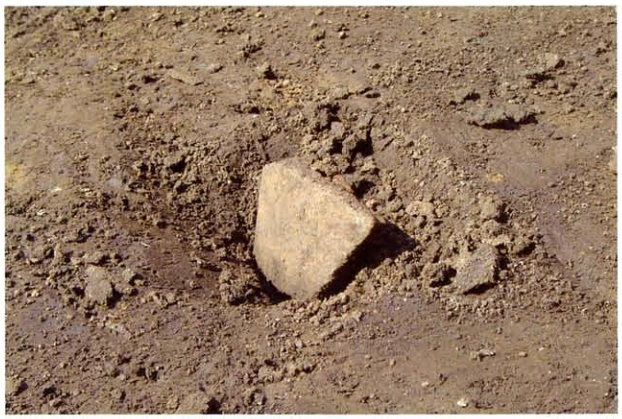
試掘坑 2

試掘坑 3

試掘坑 7

試掘坑 10

集石検出状況


試掘坑 11 遺物出土状況

試掘坑 12

調査風景

3　松ノ元地区（小林市大字東方字松ノ元）

〔調査地の立地と環境〕

調査地は小林地区の中央部に位置し、周知の埋蔵文化財包蔵地「二原遺跡群」の範囲内である。現況は畑地で、標高 230m 前後の台地端部に立地し、調査地の東 600m には古墳時代後期の地下式横穴墓群が多数発見された東二原地下式横穴墓群が存在する。

〔調査に至る経緯〕

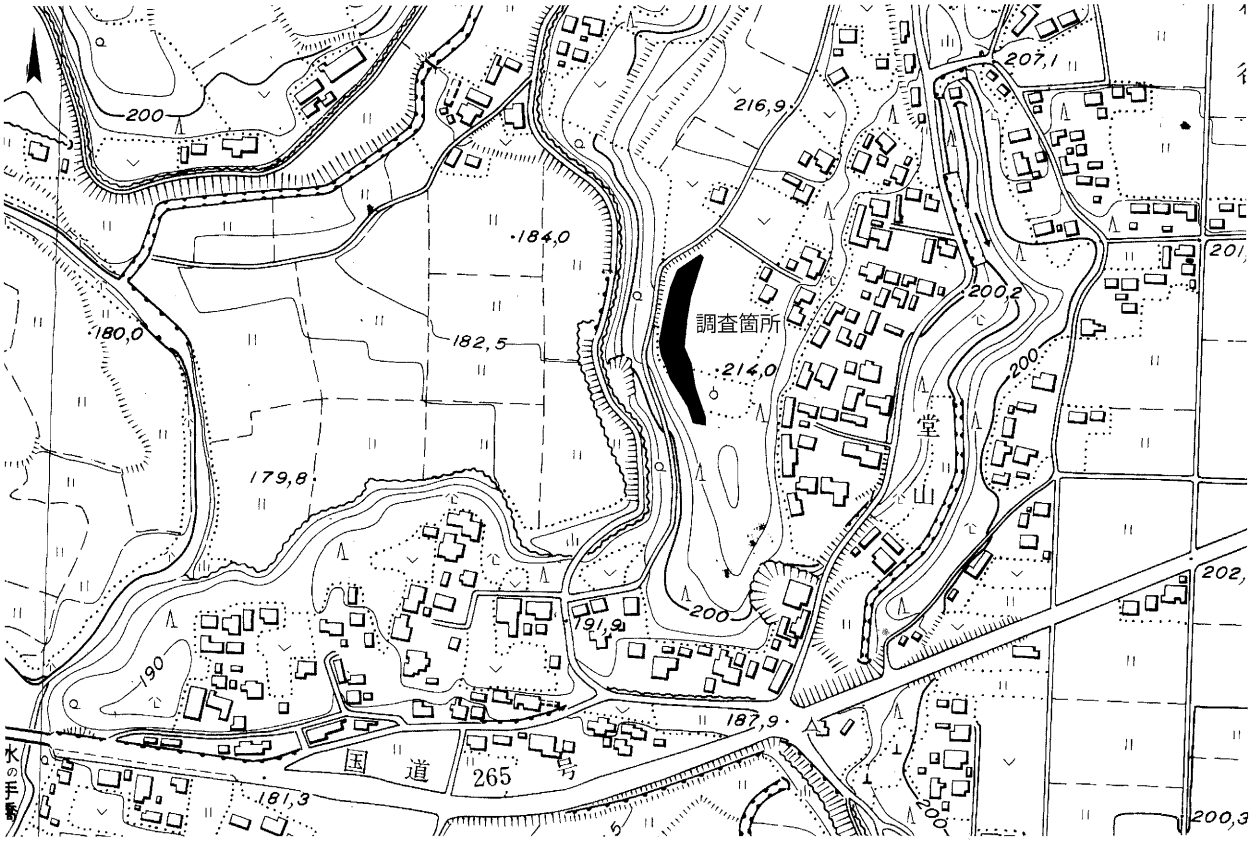
松ノ元地区では、市建設課による道路新設工事が計画されていた。工事予定地は周知の埋蔵文化財包蔵地である「二原遺跡群」の範囲に含まれており、弥生～古墳時代の遺物散布地と把握されていた。そこで、市建設課と市教育委員会との協議の結果、工事施行前に遺構・遺物の有無を判断するため、確認調査を実施することになった。

〔調査の概要〕

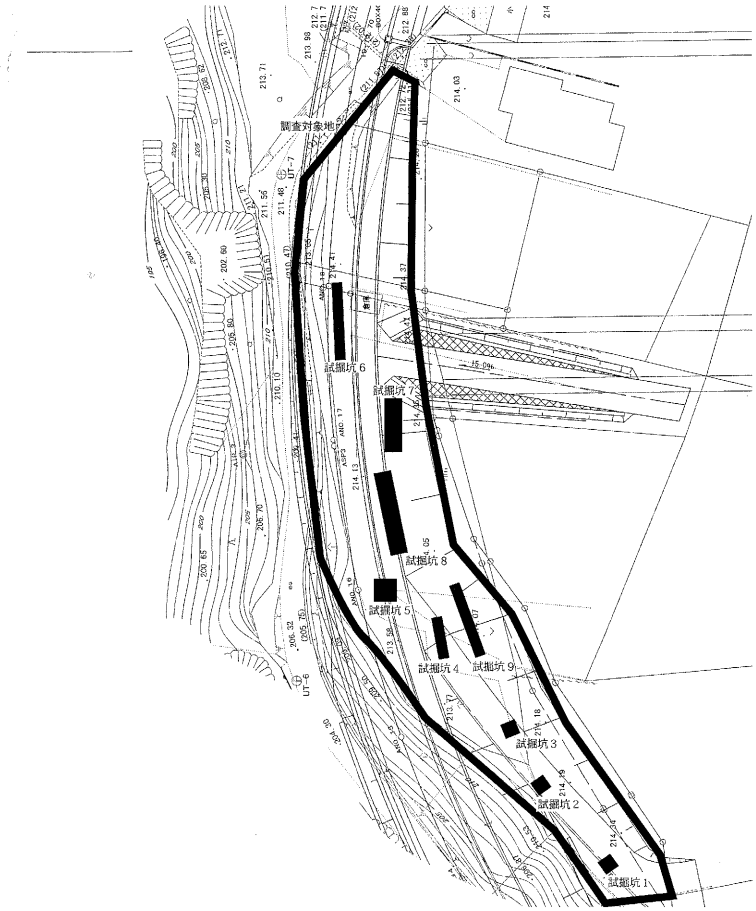
工事予定地に 9 箇所の試掘坑を設け調査を行った。調査は遺物の有無を注意深く観察しながら重機を用いて行い、Ⅱ層（アカホヤ火山灰層）およびⅥ層（灰褐色土層）上面で、人力に切り替えて遺構検出を行った。調査の結果、いずれの試掘坑からも遺構・遺物を確認することはできなかった。

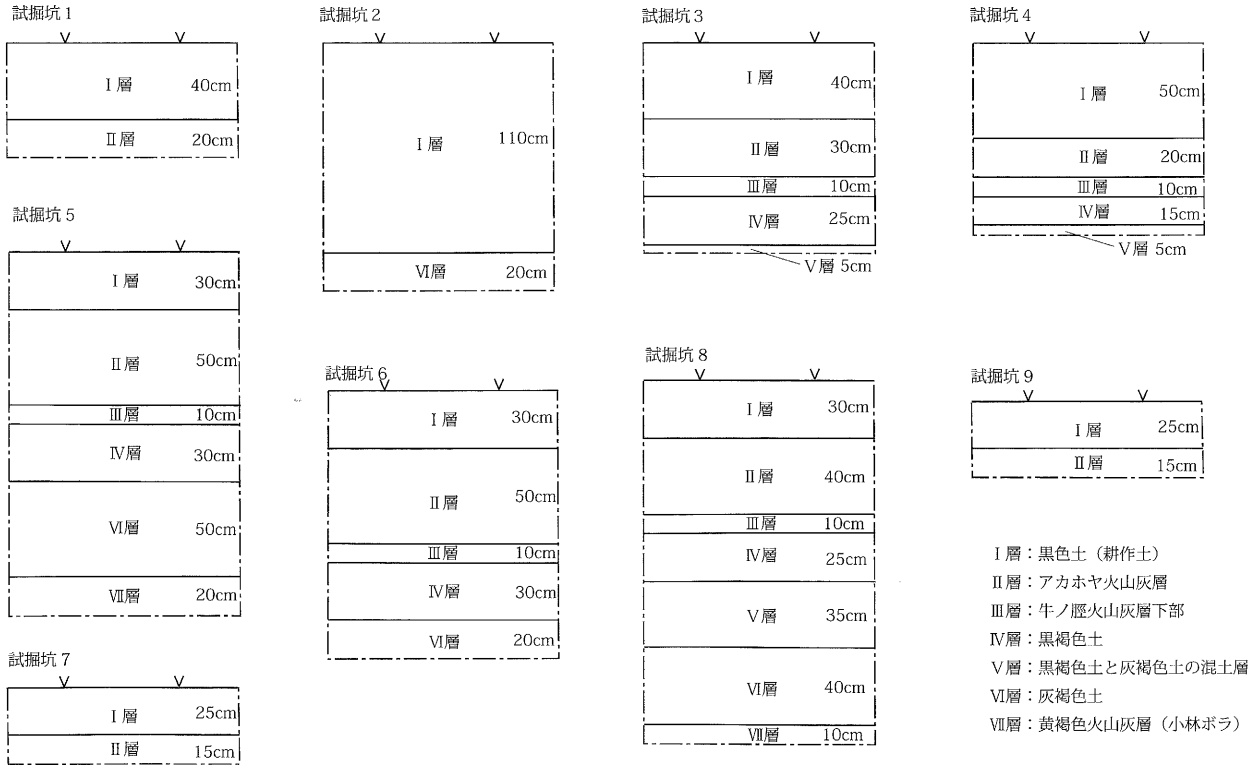
〔調査後の処置〕

慎重工事



松ノ元地区確認調査地点（1/5,000）





松ノ元地区確認調査地点（1/1,000）及び試掘坑土層図

試掘坑１

試掘坑２

試掘坑３

試掘坑４

試掘坑５

4　オカラ木遺跡（小林市大字東方字オカラ木）

〔調査地の立地と環境〕

調査地は小林地区の北西部に位置し、周知の埋蔵文化財包蔵地「オカラ木遺跡」の範囲内である。現況は原野で、標高 250m 前後の谷部に立地する。

〔調査に至る経緯〕

オカラ木地区では、市農村整備課による農道舗装工事が計画されていた。工事予定地は周知の埋蔵文化財包蔵地である「オカラ木遺跡」の範囲に含まれており、縄文時代の遺物散布地と把握されていた。市農村整備課と市教育委員会との協議の結果、工事施行前に遺構・遺物の有無を判断するため、確認調査を実施することになった。

〔調査の概要〕

工事予定地に 3 箇所の試掘坑を設定し、地表から深さ 0.7m ～ 1.2 mまで掘削した。調査の結果、いずれの試掘坑からも遺物および遺構は確認されなかった。

〔調査後の処置〕

慎重工事

試掘坑 1

試掘坑 2

5　下二原地区（小林市大字真方字下二原）

〔調査地の立地と環境〕

調査地は小林地区の北西部に位置し、周知の埋蔵文化財包蔵地「二原遺跡群」の範囲内である。現況は原野で、標高 230m 前後の台地上に立地し、調査地の東 600m には古墳時代後期の地下式横穴墓が多数発見された東二原地下式横穴墓群が存在する。

〔調査に至る経緯〕

下二原地区では、市総務課による消防団詰所の新築工事が計画されていた。工事予定地は周知の埋蔵文化財包蔵地である「二原遺跡群」の範囲に含まれており、弥生～古墳時代の遺物散布地と把握されていた。市総務課と市教育委員会との協議の結果、工事施行前に遺構・遺物の有無を判断するため、確認調査を実施することになった。

〔調査の概要〕

工事予定地に 2 箇所の試掘坑を設定し、地表から深さ 0.5m ～ 1.2 mまで掘削した。調査の結果、いずれの試掘坑でも撹乱が認められ、遺構および遺物は確認されなかった。

〔調査後の処置〕

慎重工事

試掘坑 1

試掘坑 2

6　内屋敷地区（小林市大字真方字内屋敷）

〔調査地の立地と環境〕

調査地は小林地区の北西部に位置し、周知の埋蔵文化財包蔵地「種子田遺跡群」の範囲内である。現況は畑地で、標高 230m 前後の台地端部に立地する。

〔調査に至る経緯〕

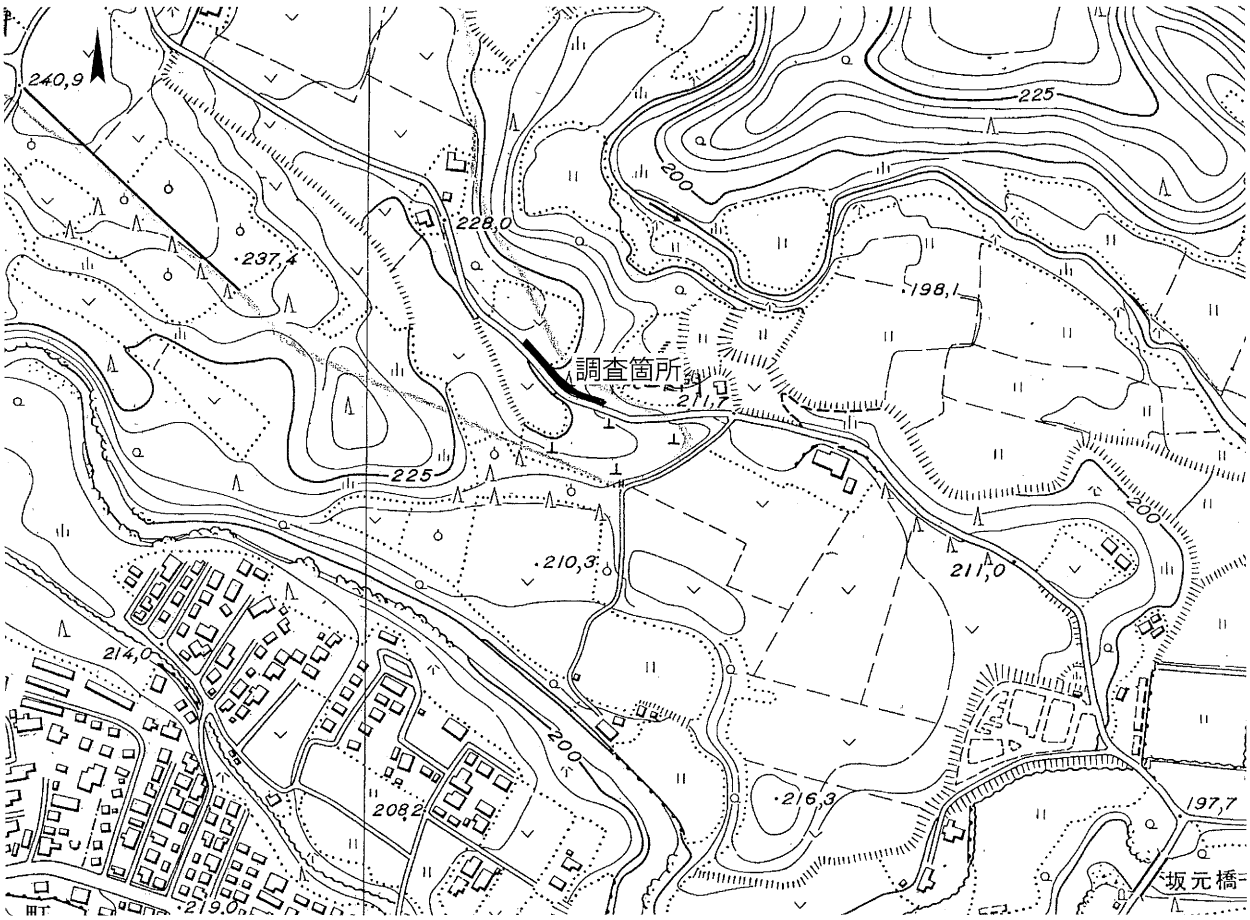
内屋敷地区では、市建設課による市道改良工事が計画されていた。工事予定地は周知の埋蔵文化財包蔵地である「種子田遺跡群」の範囲に含まれており、縄文～弥生時代の遺物散布地と把握されていた。市建設課と市教育委員会との協議の結果、工事施行前に遺構・遺物の有無を判断するため、確認調査を実施することになった。

〔調査の概要〕

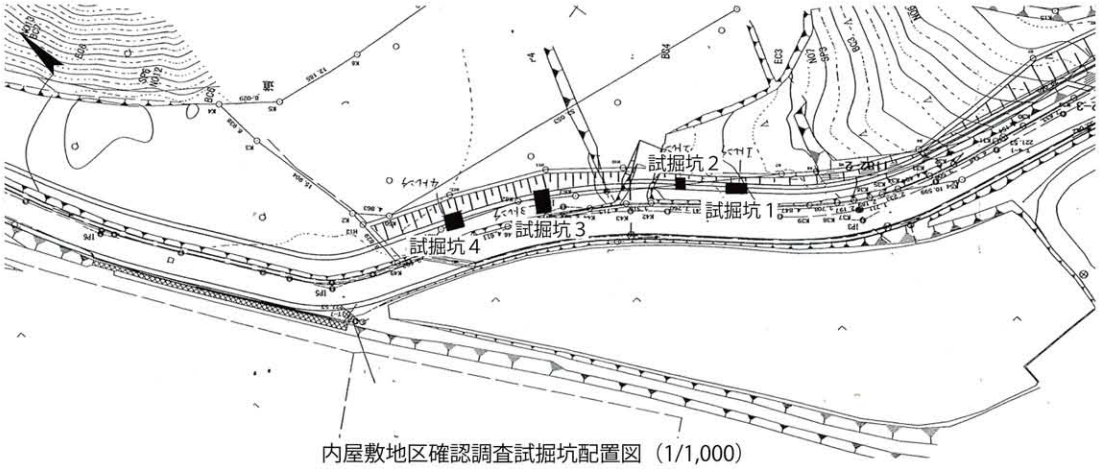
工事予定地に 4 箇所の試掘坑を設定し、地表から深さ 1.4m ～ 1.8 mまで掘削した。調査の結果、1 箇所の試掘坑からアカホヤ火山灰層上面で時期不明の溝を 1 条検出した。2 箇所の試掘坑からは、アカホヤ火山灰層下位の黒褐色土層で縄文時代早期の遺物が少量出土したが、遺構は検出されなかった。

〔調査後の処置〕

慎重工事



内屋敷地区確認調査箇所



内屋敷地区確認調査試掘坑配置図（1/1,000）

試掘坑 1

試掘坑 2

試掘坑 3

試掘坑 3

試掘坑 4

調査箇所

7　十三塚地区（小林市大字南西方字十三塚）

〔調査地の立地と環境〕

調査地は小林地区の西部に位置し、周知の埋蔵文化財包蔵地「十三塚遺跡群」の範囲内である。現況は畑地で、標高 230m 前後の台地端部に立地する。

〔調査に至る経緯〕

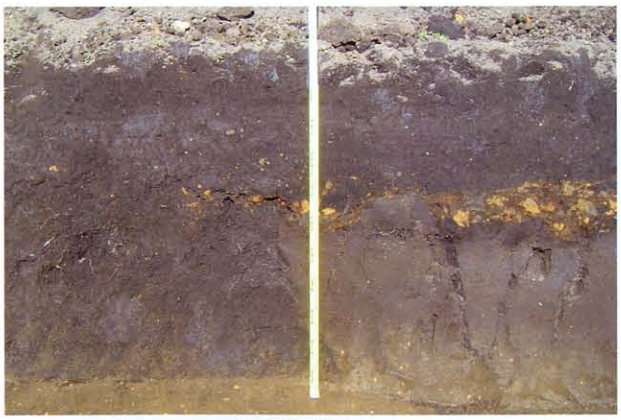
十三塚地区では、市建設課による市道新設工事が計画されていた。工事予定地は周知の埋蔵文化財包蔵地である「十三塚遺跡群」の範囲に含まれており、縄文～弥生時代の遺物散布地と把握されていた。市建設課と市教育委員会との協議の結果、工事施行前に遺構・遺物の有無を判断するため、確認調査を実施することになった。

〔調査の概要〕

工事予定地に 4 箇所の試掘坑を設定し、地表から深さ 0.7m ～ 1.1 mまで掘削した。調査の結果、1 箇所の試掘坑からアカホヤ火山灰層上位で近世以降の遺物を含む溝状遺構を確認した。その他、3 箇所の試掘坑からは遺構および遺物は確認されなかった。

〔調査後の処置〕

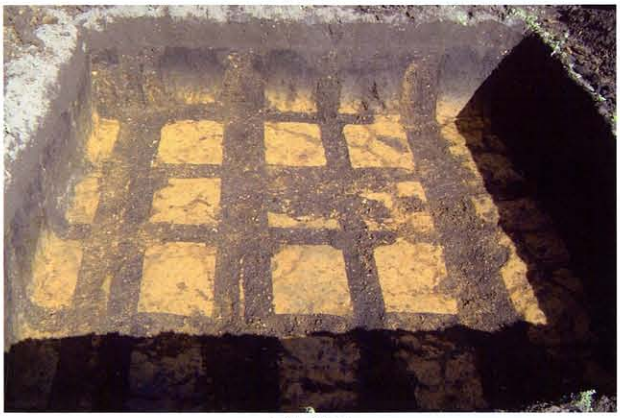
工事立会



試掘坑 1

試掘坑 2

試掘坑 3（溝状遺構）



試掘坑 4

8　中嶋地区（小林市大字真方字中嶋）

〔調査地の立地と環境〕

調査地は小林地区の中央部に位置し、現況は水田で、標高 230m 前後の河岸段丘上に立地する。

〔調査に至る経緯〕

中嶋地区では、ＪＡこばやしによる支所およびガソリンスタンドの新設が計画されていた。工事予定地は周知の埋蔵文化財包蔵地に含まれないが、弥生～古墳時代の遺物散布地である新田場遺跡群に隣接することから、ＪＡこばやしと市教育委員会との協議の結果、工事施行前に遺構・遺物の有無を判断するため、確認調査を実施することになった。

〔調査の概要〕

工事予定地に試掘坑を２箇所設定し、地表から深さ 1.8m ～ 3.0 mまで掘削した。調査の結果、１箇所の試掘坑から近世以降のものと思われる陶磁器片数点が出土した。遺構については検出されなかった。

〔調査後の処置〕

支障なし

試掘坑１

試掘坑２

9　大豆別府地区（小林市大字真方字大豆別府）

〔調査地の立地と環境〕

調査地は小林地区の中央部に位置し。現況は原野で、標高 200m 前後の台地端部に立地する。

〔調査に至る経緯〕

大豆別府地区では、市建設課による市道新設工事が計画されていた。工事予定地は周知の埋蔵文化財包蔵地に含まれないが、縄文時代の集落地である二原遺跡群に隣接しており、市建設課と市教育委員会との協議の結果、工事施行前に遺構・遺物の有無を判断するため、確認調査を実施することになった。

〔調査の概要〕

工事予定地に 7 箇所の試掘坑を設定し、地表面から深さ 0.6 ～ 1.5m まで掘削した。地表から 0.2m 前後でアカホヤ火山灰層が確認され、この層の上面で遺構の検出を行ったが、いずれの試掘坑からも遺構および遺物を確認することはできなかった。アカホヤ火山灰層より下層の調査では、対象地北西隅に設定した試掘坑 5 において、縄文時代早期の層位にあたる暗褐色土層上面で、熱を受け赤化した礫を含む土坑を 1 基確認した。その他の試掘坑からは、遺構および遺物は確認されなかった。

〔調査後の処置〕

協議中

試掘坑 5（北から）

試掘坑 5（遺構検出状況）

試掘坑 2（東壁）

試掘坑 7（東壁）

報 告 書 抄 録

ふりがな	しないいせきはっくつちょうさほうこくしょ
書　名	市内遺跡発掘調査報告書-平成21(2009)年度-
シリーズ名	小林市文化財調査報告書
シリーズ番号	第5集
編著者名	秦　広之
所 在 地	宮崎県小林市大字細野300番地
発行年月日	平成22(2010)年3月31日

調査地区名	遺跡名	所 在 地	調査期間	調査面積	出土遺構	出土遺物	調査要因
千才地区	千才遺跡群	小林市大字南西方字千才	H21.4.16	24㎡	なし	なし	県営畑地帯総合整備事業
東二原地区	二原遺跡群	小林市大字真方字東二原	H21.8.17～H21.8.25	124.5㎡	集石遺構３基	条痕文土器・押型文土器・石鏃	市道改良工事
松ノ元地区	二原遺跡群	小林市大字東方字松ノ元	H21.10.8～H21.10.10	97㎡	なし	なし	市道新設工事
オカラ木地区	オカラ木遺跡	小林市大字東方字オカラ木	H21.10.15	8㎡	なし	なし	農道舗装工事
下二原地区	二原遺跡群	小林市大字真方字下二原	H21.10.28	8㎡	なし	なし	市消防団詰所新設工事
内屋敷地区	種子田遺跡群	小林市大字真方字内屋敷	H21.11.30～H21.12.2	13.5㎡	溝状遺構1条	縄文土器	市道改良工事
十三塚地区	十三塚遺跡群	小林市大字南西方字十三塚	H21.12.21～H21.12.22	33㎡	溝状遺構１条	近世以降の陶磁器	市道新設工事
中嶋地区	周知の埋蔵文化財包蔵地外	小林市大字真方字中嶋	H21.12.24	72㎡	なし	近世以降の陶磁器	農業協同組合の支所新設工事
大豆別府地区	周知の埋蔵文化財包蔵地外	小林市大字真方字大豆別府	H21.3.17～H21.3.18	71㎡	土坑1基	なし	市道新設工事

小林市文化財調査報告書第5集

市内遺跡発掘調査報告書-平成21(2009)年度-

平成22(2010)年 3月31日

編集・発行　宮崎県小林市教育委員会
宮崎県小林市大字細野300番地
印　　刷　小林プリント